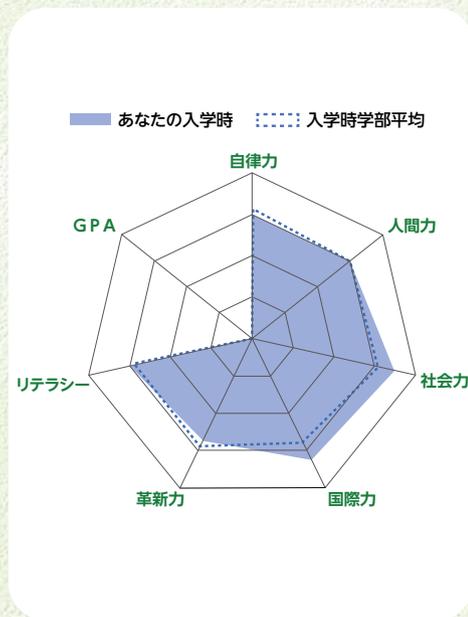


# 卒業までに役立つ2つのツボ

## —「人間力」と「書く能力」—

皆さんの勉学をサポートする「フィードバックシステム」と「ライティングラボ」。ここでは、この2つのシステム・サポートの仕組みや、学生にどれほど役立つアドバイスが送られるのかを紹介します。

### フィードバックシステム



自分の結果だけでなく「全体の中で自分がどれくらいの位置にいるのか」という情報や、膨大な成績データの分析結果から、個々の学生に役立つアドバイス等が得られるシステムです。2018年から社会安全学部が、2019年から人間健康学部と総合情報学部が、2020年からは文学部、商学部、外国語学部、システム理工学部の学生が利用できるようになりました。

インフォメーションシステムのサイドメニュー「教務サービス」内の「学生調査フィードバック」からアクセスし、自分の結果と学部の平均値を確認することができます(左図)。ここまでは他大学と同じですが、ここから先が違います。

自分の成績をさらに伸ばすためにどうすれば良いのでしょうか。その答えが画面に浮かびます。関西大学が掲げる「考動力」を具現化する5つの力(自律力、人間力、社会力、国際力、革新力)に分けてアドバイス。これが想像以上に細かくて丁寧です。例えばこんな具合に。

- 社会安全学部の学生で、「人間力」に不安のある学生には・・・
- 「入門演習」のグループワークに積極的に取り組もう。
- 3年次開講「社会安全実践演習」ではシミュレーション訓練形式で人間力を高められます。

実際、社会安全学部3年次生の河村有紗さんは、このシステムで「国際力が弱い」ことを指摘されました。意外でしたが「関大生の中ではそうなのだろう」と判断し、ロサンゼルスでの国際インターンシップ(1カ月)や内閣府によるペルーなどでの青年国際交流事業(1カ月)に参加して、語学力やコミュニケーション能力に磨きをかけたそうです。

また、特定の必修科目の単位を落とすと、4年間で卒業できない割合が高いというような傾向も、過去の膨大な成績データを分析することで分かってきました。ですから「この科目を落とすと卒業やバイゾ」となるわけです。

### ライティングラボ



これは「書く」のが苦手なあなたへのサポートです。各キャンパスにあるライティングラボで、訓練されたチューターの大学院生から指導が受けられます。レポートや発表資料、卒業論文に至るまで、さまざまな文章作成を支援します。

チュータリングのミソは「敢えて文章添削はしない」こと。相談に来た学生に、自分の課題に気付く能力を養ってもらうためです。参考文献の探し方から引用方法、文章の構成、表現のコツに至るまで、アドバイスは多岐にわたります。

同様のラボは他大学にもありますが、教育推進部の岩崎千晶准教授によると、本学の特徴は以下の点です。

- ラボに直接来るのが難しい学生は、「Skype」を利用したオンラインによる指導を受けることが可能です。
- 関大LMS(Learning Management System)では、「書く」ことに関するeラーニングを利用でき、29のテーマについて動画などを視聴することによって手軽に学ぶことができます。
- 授業や正課外プログラムとの連携を積極的に進めています。各学部の初年次教育での出張講義や、SF入試で入学した学生向けの講習会を実施しています。後者は1年次に6回実施し、2,000字程度のレポートを仕上げるように指導します。



『レポートの書き方ガイド』  
ライティングスキルを解説した「レポートの書き方ガイド」(基礎篇・入門篇・発展篇)を配布しています。

下のサイトから、PDFをダウンロードすることができます。



さあ、あなたも一度利用してみたいかがでしょう。